

日本のLCC3社:業容と業績概観

2016年9月3日

日本のLCC3社（Peach、Jetstar-J、Vanilla）について、その業容と業績を概観した。
各社および国交省が発表した2015年度資料※による（それを加工した試算値を含む）。

※Jetstar-Jは6月決算、他の2社は3月決算、国交省資料は2015年度。

1. 2015年度業績の比較

- 1) 好業績のPeach；479億円の収入で62億円の営業利益（利益率13%）。
3年連続黒字で留保利益は20億円、流動資産多く手元資金も潤沢と考えられる。
- 2) 規模最大のJetstar-J；収入522億円、初めて黒字計上（営業利益率2%）。
但し約300億円の累損が残る。
- 3) 業績好転のVanilla；収入はPeach、Jetstar-Jの半分以下だが初めて黒字計上。
113億円の累損はあるが、営業利益率は7%と業績は上向き。
- 4) LCC3社の合計収入に占める各社のシェアは、Peach：39%、Jetstar-J：43%、
Vanilla：18%。
Peachの収入を100とした指数では、Jetstar-Jは109、Vanillaは46。

			Peach		Jetstar-J		Vanilla	
①決算値	営業収益	億円	479	100	522	109	218	46
	(3LCC間シェア)			39		43		18
	営業利益	億円	62		13		15	
	(利益率)	%	13		2		7	
	(当期利益)	億円	27		1		24	
	流動資産	億円	266		88	(前期末)	97	
	資本金+資本剰余金	億円	150		340	(前期末)	150	
	利益剰余金	億円	20		-300	(推定)	-113	

2. 事業構造の比較

①事業規模；便数規模で Jetstar-J が最も大きく Peach の 1.2 倍。

3LCC の合計座席^キに占めるシェアは、Peach；37%、Jetstar-J；41%、Vanilla；22%。

②各社の事業構造（旅客^キ=RPK にもとづく際内割合）；

Peach；国内/国際バランス型で、その割合は 6：4。

Jetstar-J；国内線中心で 9 割以上が国内線。但し現在国際線展開を加速中。

Vanilla；国際線の比重が大きく、内際割合は 4：6。

各社の特徴は平均距離に表われ、Jetstar-J は約 1000km、Vanilla は 1700km。

②国内線の規模比較（旅客^キ=RPK による）；

Jetstar-J が圧倒的に多く（Peach の約 1.8 倍）、56% のシェアを占める。

Peach のシェアは 32%、Vanilla は 12%。

平均距離は関西基点の Peach が短く、成田発長距離便中心の Vanilla が長い。

			Peach		Jetstar-J		Vanilla	
②事業構造 比較	便数	便	29,141	100	34,915	120	10,998	38
	座席 ^キ	百万 ^キ	5,669	100	6,342	112	3,393	60
	(3LCC間シェア)			37		41		22
	平均距離	km	1,080	100	1,010	93	1,709	158
(国内線状況)	国内線割合(RPK)	%	59		95?	(推定)	38	
	国内線旅客数	千人	3,135		4,906		962	
	国内線RPK	百万 ^キ	2,874	100	5,105	178	1,112	39
	(3LCC間シェア)			32		56		12
	国内線距離	km	918	100	1,016	111	1,259	137

3. 発着ベースの指標比較；発着当りの単価、収益性の比較

①国際線等路線距離の長い Vanilla は旅客単価（12,900 円）、座席コスト（10,300 円）とも高く、採算ライン（B/E）は 80%、それを搭乗率（85%）が 5ポイント上回って利益を計上。

1 便当り収入も 198 万円と多く、利益は 14 万円。

②路線距離の短い Jetstar-J は旅客単価が最も低い（10,000 円）が、座席コストは Peach より高く（8,100 円）、B/E は 81%。但し搭乗率（83%）がそれを上回って利益を計上。

1 便当り収入は 150 万円と最も少なく、利益は 4 万円。

③Peach は旅客単価（10,500 円）が Jetstar-J を上回り、座席コスト（8,000 円）は最も低く、B/E は 76%。搭乗率は 87%と B/E を大きく上回っていることで大巾利益を計上。

1 便当り収入は 164 万円で、利益は 21 万円。

			Peach		Jetstar-J		Vanilla	
③発着ベース 指標	座席数	千席	5,245		6,285		1,980	
	旅客数	千人	4,547	100	5,210	115	1,692	37
	搭乗率	%	87		83		85	
	旅客単価	円/人	10,543	100	10,026	95	12,882	122
	座席コスト	円/席	7,961	100	8,104	102	10,253	129
	B/E	%	76		81		80	
（便当り指標）	収入	千円	1,645	100	1,496	91	1,982	120
	利益	千円	212		37		136	
	席数	席	180		180		180	
	旅客数	人	156	100	149	96	154	99

4. 距離ベースの指標比較；1000km 当りの単価、収益性比較

- ① 路線距離が伸びるに伴って、距離当たりでみる座席コストは低減するため、Vanilla の座席コストは 6,000 円/千^キと最も低コスト、収入もこれに連動して 7,500 円/千^キと低単価。
- ② 概してコスト高の国内線中心の Jetstar-J は、収入単価が高い（9,900 円/千^キ）が、コストも 8,000 円/千^キと、Peach を大きく上回っている。
- ③ Peach は、Jetstar-J を大幅に下回る座席コスト（7,400 円/千^キ）で、ほぼ Jetstar-J 並みの収入単価（9,800 円/千^キ）を得ることで、採算ライン（B/E）を低めに抑えており、高い搭乗率とも相まって高い利益率を達成している。

			Peach	Jetstar-J	Vanilla			
④ 距離ベース 指標	座席 ^キ	百万 ^キ	5,669	100	6,342	112	3,393	60
	旅客 ^キ		4,912	100	5,260	107	2,892	59
	搭乗率	%	87		83		85	
	旅客 ^キ 単価	円/千 ^キ	9,761	100	9,931	102	7,537	77
	座席 ^キ コスト		7,366	100	8,031	109	5,982	81
	B/E	%	75		81		79	

(さいごに)

- ・ Peach は、採算ライン（B/E）を低くコントロールするとともに、極めて高い搭乗率を維持しており、今後とも好業績が期待される。
- ・ Vanilla は、採算ライン（B/E）はやや高いものの、それをかなり上回る搭乗率を実現して、今後の収益性の維持向上が期待される。
- ・ Jetstar-J は、採算ライン（B/E）が高いために「収益性の安定」には、現時点ではなお一抹の不安もある。安定利益計上（⇒累損の解消）のためには、採算ラインの引き下げと、搭乗率の一層の向上が望まれよう。

以上